

## 第619回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1. 百間川河口水門増築事業（H26年度全建賞）、百間川分流部改築事業

…………… 岡山市中区桑野、岡山市東区升田、岡山市中区中島付近

百間川は岡山下城下を旭川の洪水から守るために、岡山市中島と竹田の間で分流し、操山の北から東を巡り米田付近から南流して沖新田の南端で児島湾に注ぐように造られた放水路です。長きにわたり岡山市街地を洪水から守ってきましたが、明治以降の相次ぐ洪水や戦後の岡山の発展に伴い、より高い洪水への安全性が求められ、昭和49年から本格的な改修が開始されました。これにより、丈夫な堤防、安全に渡れる橋梁、多様に利用される高水敷などが整備され大きく姿を変えました。その後、岡山市をはじめとする氾濫区域内の経済的・社会的変化等による治水安全度の向上の必要性から平成4年に治水計画が見直され、平成9年に百間川分流量に対応した堤防が概成、平成17年度に砂川の関連改修区間が完成しました。また、河口水門の増築事業が平成26年度に完成しました。この水門は、ライジングセクターゲートで、径間長・ゲート重量は日本最大であり、門数も最多の3門を有しています。軟弱な地盤や湧水の排除など施工条件が厳しい中で工事を実施し、流下能力不足となっている百間川河口での治水安全度向上に大きく寄与し、周辺景観に配慮した意匠、素材などを採用するとともに、排水管や電線管等の添加物も表面に出さない構造となっています。なお、この水門増築事業は平成26年度の全建賞を受賞しました。

（視察キーワード：災害対策、新技術、全建賞受賞事業等）



### 2. 水島港臨港道路整備事業

…………… 倉敷市玉島乙島～倉敷市水島川崎通

水島港は岡山県中西部の高梁川河口に位置する国際拠点港湾であり、鉄鋼、石油化学及び自動車など多様な産業が立地する水島臨海工業地帯の玄関口として重要な役割を担っています。我が国の基幹産業が集積する水島臨海工業地帯を擁し、中・四国第1位の取扱貨物量を誇る港湾です。しかし、生産拠点である水島地区と物流拠点である玉島地区間の港湾貨物輸送の円滑化や玉島地区における国際コンテナ貨物の増加、船舶大型化、大規模地震への対応といった港湾機能の強化を図ることが喫緊の課題となっています。輸送船舶の大型化が進展するなかで、水島港の公共埠頭は現状で水深10mが最大であり、大型船舶に対応できない状況となりました。

本事業は、近年の外貿コンテナ等貨物量の増加や就航船舶の大型化に伴い、日常的な混雑を呈している当地区において、係留施設不足の解消を図るとともに、背後圏荷主が利用する一般国道430号への輸送時間の短縮化を図り、物流コストの低減と産業競争力の強化に資するものです。この事業により、港湾貨物に係る輸送コストが削減され、臨海部に立地する企業の産業競争力が強化されるとともに、地域経済の振興、大規模災害に対する地域の災害対応力の強化を図ります。

（視察キーワード：景観保全、ストック活用、地域活性化、官民協働等）



### 3. 倉敷美観地区

…………… 倉敷市美観地区

倉敷市の美観地区景観条例に基づき定められた地区で、町並保存地区・観光地区として整備され、伝統的建造物群保存地区（第一種美観地区）が15.0ha、伝統美観保存地区（第二種美観地区）が6.0haとなっています。伝統的建造物群保存地区（倉敷川周辺）は倉敷川畔伝統的建造物群保存地区の名称で国の重要伝統的建造物群保存地区として選定されています。倉敷川の畔から鶴形山南側の街道一帯に白壁なまこ壁の屋敷や蔵が並び、天領時代の町並みを残していて、昭和44年に倉敷市の条例に基づき美観地区に定められ、昭和54年に県内2件目の重要伝統的建造物群保存地区として選定されました。また、昭和5年に建てられた日本最初の西洋美術館大原美術館や明治21年に代官所跡地に建てられた旧倉敷紡績工場の建物を改修・再利用した観光施設倉敷アイビースクエア等も当地区を代表する建築物です。平成17年度から27年度まで美観地区を含む倉敷駅周辺地区を対象に、都市再生整備計画事業を実施し、官民一体での中心市街地活性化事業や景観等の質の向上を図り、広域集客を実現する個性と魅力を高めるため、町並み形成を図る電線類等の地中化事業など、地域特性を活かした個性あふれるまちづくりに取り組みました。平成27年度県下初の中心市街地活性化Ⅱ期の認定も受け、平成28年度からの都市再生整備計画も策定中です。

（視察キーワード：ストック効果、NETIS、安全管理、災害対策等）

